DERWENT- 1978-05682A

ACC-NO:

DERWENT- 197803

WEEK:

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Refrigerated, packed bananas - obtd. by peeling,

sterilising, immersing in aq. soln. contq. sugar and

acids, packing under vacuum and freezing

PATENT-ASSIGNEE: KOWA BUSSAN KK[KOWA]

PRIORITY-DATA: 1976JP-0060585 (May 27, 1976)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO PUB-DATE LANGUAGE PAGES MAIN-IPC

JP 52145549 A December 3, 1977 N/A 000 N/A

INT-CL (IPC): A23B007/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 52145549A

BASIC-ABSTRACT:

Refrigerated, packed banana is produced by removing peel from post-ripened or naturally ripened banana, heat-treating with high frequency wave to sterilise the flesh, prevent enzymes from being oxidised and evaporate moisture, immersing into an aq. mixed soln. of sugar, citric acid and ascorbic acid to allow the soln. to penetrate into the surface of the flesh, packing under vacuum with films like PE film, and affecting a short time rapid refrigeration ot eht thus packed flesh of banana at lowered temp.

Refrigeration is effected at lowered temp. of -50 degrees C to -80 degrees C for 2 to 10 sec. The process, using sugar to retain the sweetness, citric acid to prevent discolouration and a ascorbic acid to prevent degradation by oxidn. of the flesh, produces refrigerated banana with flavour, freshness and calories well retained.

TITLE- REFRIGERATE PACK BANANA OBTAIN PEEL STERILE IMMERSE AQUEOUS

TERMS: SOLUTION CONTAIN SUGAR ACID PACK VACUUM FREEZE

DERWENT-CLASS: D13

CPI-CODES: D03-A04;

19日本国特許庁

①特許出願公開

公開特許公報

昭52—145549

⑤ Int. Cl².A 23 B 7/00A 23 B 7/04

3. No. 34

識別記号

34 D 01 34 D 011 庁内整理番号 7258-49 7258-49 ❸公開 昭和52年(1977)12月3日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 2 頁)

砂冷凍パツクバナナの製造方法

②特 願 昭51-60585

20世

願 昭51(1976)5月27日

⑩発 明 者 小倉篤

鎌倉市雪ノ下2丁目14番30号

同

上杉弘雄

川口市芝1040番地

⑫発 明 者 大脇省三

浦和市大字辻1527番地2号

⑪出 願 人 興和物産株式会社

浦和市高砂3丁目6番16号

個代 理 人 弁理士 佐々木功

明 細 書

- 1. 発明の名称 冷凍パックパナナの製造方法 2. 特許請求の範囲

3. 発明の詳細な説明

本発明は、地理的条件上、輸入に頼らざるを得ないパナナを長期にわたつて保存、貯蔵し、年間を通じてむらのない出荷を図ることを目的とした冷凍パックパナナの製造方法に関するものである。 周知のごとく、パナナは変質が激しくまた、その変質が短時間で表われてくるものであるため、 貯蔵が困難なものとされていた。そこで近年、乾燥、冷凍等による貯蔵法が提供されているところであるが、いずれも、ピタミンその他の栄養分の破耗が激しく、食用とした場合に香味、風味に乏しいものとなつてしまい、更には、その加工工程が複雑で大規模な設備が要求されているものである。

特問 昭52--145549(2)

更に真空パックされたバナナ果肉を適当な低温に て種く短時間、急速冷凍することを特徴とする冷 凍パックバナナの製造方法に存する。

次に本発明の実施例を過程に沿つて脱述する。

(1) 剝 皮

追熟処理、もしくは、自然成熟した原料バナナを剝皮し、果肉バナナとする。

(2) 高周波熱処理

前記、剝皮した果肉パナナを高周波により 70°~80℃で30~60秒間熱処理を行なう。 この高周波熱処理により、雑菌、解棄類の酸化 防止、および水分を蒸発減少せしめて、腐敗を 防ぐようにする。

(3) 砂糖、酸等の水溶液への浸漬

前記、高周波熱処理した果肉パナナを、糖分40%~50%、クエン酸18~28%、およびアスクルピン酸1%~2%、水分35%~40%の混合配合比とした水溶液中に受費して、果肉パナナの表面に酸水溶液を浸み込ませながら該水溶液による薄膜を形成する。

そして、その真空パックがなされるため、パナナの栄養分は、新鮮に保留せられ、更には、パナナに 風味を損なわしめない 程度の ー 5 0 ℃ ~ ー 8 0 ℃で冷凍するために、その鮮度や熱量は十分に保たれるものである。

本発明は成熟して柔らかくなり厳粉が分解して 甘味が増し、芳香性のアミルアルコールができ、 タンニンが不溶解性となつたものを原料パナナと

(4) 真空 パック

前記、水溶液を表面に侵み込ませた果肉パナナを個々に、ポリエチレンフイルムにより、被 優し、真空パツクを施す。

(5) 急速冷凍

前記、真空ペックを施した果肉パナナを -50℃~~80℃の低温にて2秒~10秒間 急速に冷凍する。

かかる過程を経て製造された冷凍パンクパナナ は-15℃~-18℃にて保存、貯蔵されるもの である。

本発明に係る冷凍パックパナナの製造方法は上記の如く実施されるものである。

剝皮した果肉パナナを高周波熱処理を行なりために、殺菌、酵素類の酸化防止を合せて作用する ことができ、更には果肉パナナから水分を適宜蒸 発減少させることとなり、腐敗を防ぐことができ る。この高周波の熱処理を施す単一作業において 多目的の効果を上げることができる。

そして、糖分、クエン酸、アスクルビン酸の混

して用いるために、冷凍パックされた製品を溶解するのみで即、食用として供給することができ、 又、本発明により製造された製品を用いて、パナナ・フィックやパナナ・ミールを製造することも 勿論可能である。

このように本発明を実施することは、多くの利 点を有しているものであり、本発明を実施すると・ とは、その実益的価値が甚だ大なるものがある。

特許出願人 奥和物産株式会社

代理人 弁理士 佐々木

功